

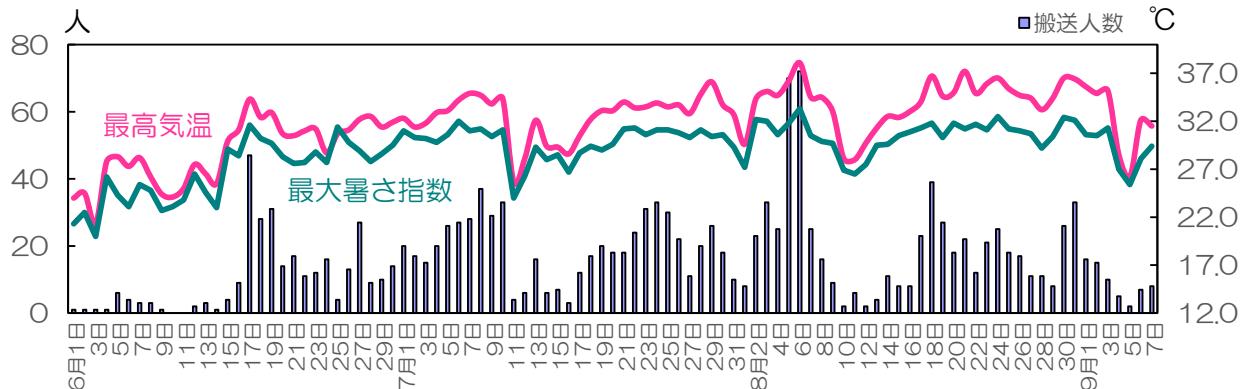
熱中症情報



衛生研究所の
インスタグラム
できました。
フォローお願いします！

＜搬送数＞

令和7年5月1日～9月7日までの搬送数（消防局データを使用）は、計1,619人（5月26人・6月293人・7月604人・8月633人・9月63人）でした。8月6日は、最高気温が38.1℃で、搬送数が72人/日と、期間内で最多を記録しました。8月17日～31日まで、連日、最高気温が34.0℃以上で、その内猛暑日は8日あり、猛暑日の搬送数は、18人以上/日でしたが、9月に入り、気温も多少下がり、搬送数も減少傾向です。



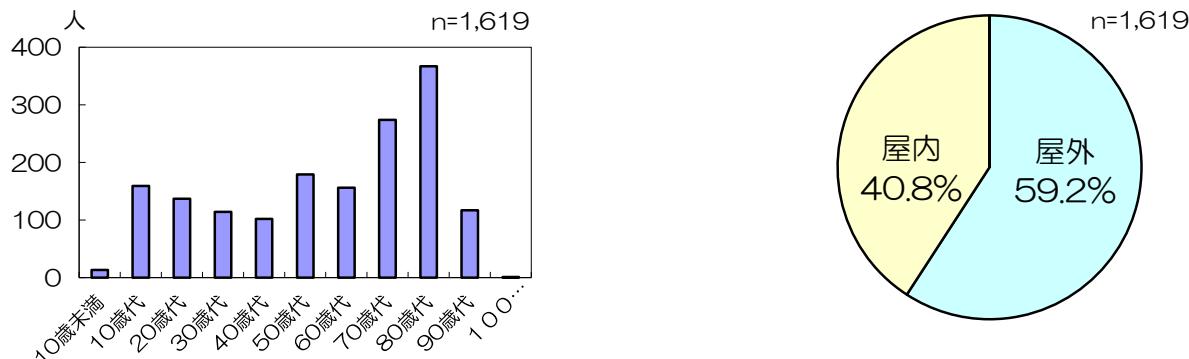
熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。

気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働くことで、体内に熱がこもってしまうことがあります。

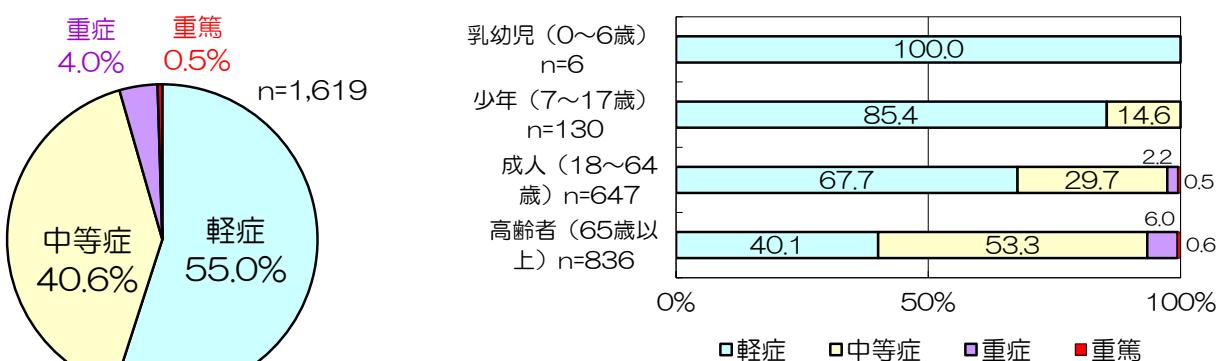
身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。

暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数（WBGT）とは？](#)」をご覧ください。

＜年齢別＞ 80歳代が367人（22.7%）で最も多く、＜発生場所＞ 屋外59.2%、屋内40.8%で、屋外での発生が多くなっています。



＜重症度*＞ 軽症55.0%、中等症40.6%、重症4.0%、重篤0.5%でした。高齢者で中等症以上の割合が59.9%と高い傾向が見られました。



*重症度の定義（横浜市熱中症情報）

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。